

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520628

研究課題名（和文）第二次世界大戦中の連合国教育相会議に関する歴史学的検討

研究課題名（英文）An Historical Study of the Conference of Allied Ministers of Education during World War II

研究代表者

廣部 泉（HIROBE IZUMI）

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：80272475

研究成果の概要（和文）：戦後国際秩序形成の過程において、アメリカが政治領域で主導権を握っていく中で、それに追随するイギリス、そして、戦前保っていた国際政治における影響力の減退をなんとか食い止めるため、どこかで主導権を握れる分野を持ちたいと考えるフランス、それらの諸国のせめぎ合いの中で戦争終結を迎える。第二次世界大戦によって、アメリカが圧倒的存在感をもってたちあられ、イギリスの存在感が相対的に減退する中で、知的協力分野で主導権を握ることをフランスが米英に黙認させるに至り、後継機関の本部はロンドンではなく、パリに決まった。

研究成果の概要（英文）：In the process of creating an international order immediately after World War II, the infighting for ascendancy continued. While the United States took the initiative in the field of politics, and with the United Kingdom following, France sought a field where she could seize the initiative. While the position of the United States became dominant, the status of the United Kingdom declined. Since the French succeeded in letting the United States cede to France the initiative in the field of international intellectual cooperation, the successor organization to the International Organization of Intellectual Cooperation had its head office not in London but in Paris.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・西洋史

キーワード：西洋史

1. 研究開始当初の背景

(1)研究代表者は、これまで欧米諸国の他者認識、特に日本を含めた東アジアと呼ばれる地域に対する認識について研究してきた。その過程で、西洋中心に形成された諸概念がいかにか所与のものとして非西洋に押し付けられてきたか、そして押し付ける側も押し付けら

れた側もいかにその事実は無自覚であるかに思い至った。歴史学においては、近年そのような認識に基づいた修正が進んでおり、異文化理解を含めた幅広い研究が進められつつある。それに比して、国際機関や国際関係についての研究は、研究が法学や政治学の領域を中心に進められてきたことにより、歴史

学に比して、はるかに近年のポストコロナ的
成果が取り入れられていないといえる。今
回の研究課題とした国際文化交流事業に
ついての研究でもそうした傾向は顕著で
あり、現状を所与のものとして短期的な
視点で物事をとらえる現状分析的研究が
主流である。

(2)以上のような理解から、これまで国際
連合教育科学文化機関 (United Nations
Educational, Scientific and Cultural
Organization) の前身である、戦前の国際
連盟知的協力国際委員会 (League of Nations
International Committee on Intellectual
Cooperation) について、分析を加えてきた。
その結果、そもそも知的交流委員会に始
まる枠組み形成やどのような交流がよいと
するかの価値判断に至るまで、さまざまな
構成要素によるせめぎあいと妥協の結果
によって形成されたその時々産物といえる
ようなものであり、その過程を歴史学の
視座から分析し直し、それに基づいて長
期的視野から、その前提からして修正し
ていくべきであるとの認識に至った。

2. 研究の目的

上記の過程で本研究代表者は、従来の研
究が、国際文化交流の歴史を1920年代、
1930年代に盛んに活動した知的交流国際
委員会と、同委員会を前身として誕生した
国際連合教育科学文化機関に戦後はその
活動が引き継がれていったという形で、
その歴史を連続的・継続的なものとして
単線的に描いているという問題点に気が
付いた。戦後の国連教育科学文化機関の
形成とその後の歴史を考えると、不可欠
なのは第二次世界大戦中の分析であるとい
う点である。すなわち、ナチスドイツが
ヨーロッパを席卷した第二次世界大戦中
については、国際連盟知的協力国際委員
会が実質的に機能しなくなったという前
提から、戦中についてはほとんど分析が
なされていないのである。徐々に明らか
となってきたのは、第二次世界大戦勃発
に伴う枢軸国によるヨーロッパ占領によ
って、多くの国々の政府がロンドンに亡
命せざるを得なくなった戦中、イギリス
が中心となって、ロンドンで戦後を見据
えた国際文化交流のための集まりが、各
国の文部大臣による知的交流分野に関す
る連合教育相会議 (Conference of Allied
Ministers of Education) として行われ、
その協力とせめぎあいの中から戦後の
枠組みが形成されて至ったことである。
その当時の交渉過程が現在へとつなが
る国際連合の国際文化交流へとつなが
っていく。具体的には、連合教育相会議
について第二次世界大戦の最中に、戦
況とは直接関係のない教育という分野に

いて議論するために集った参加各国の思
考を分析すると共に、それらが戦況の変
化とあいまって、どのように戦後の機
関の設立に影響を与えていくのかを明
らかにする。このような領域は、これま
で政治学や国際関係論の研究対象では
なかったものの、ほとんど歴史学から
アプローチされることがなかった。歴史
家入江昭がその著書 *Cultural Internationalism and World Order* (Baltimore: The Johns Hopkins University Press, 1997) でわずかに言及している程度である。従来の政治学による研究の主眼は、出来上がった国連教育科学文化機関の枠組みを所与のものにとらえ、その中でどのように行動し、組織を活用するのが有効かという視点に限定されがちである。そのような視
角からは、より根本的な問題点は見えて
こないとの考えに基づいて、歴史学的視
角を得ることによって、そもそも現在の
仕組みがどのような力関係によって形成
されたのかに理解を与えることができ、
そのような理解なくしては21世紀にお
けるよりバランスのとれた国際文化交
流など不可能と考える。

3. 研究の方法

まず、国際文化交流の歴史的展開や国際
連盟、国際機関ユニオンを初めとする欧
州の諸期間を検討する上で、必要な歴
史的な理解を深めるため、国際文化交
流及び国際連合教育科学文化機関など
の国際機関に関する基本図書を購入し、
通読を始めた。当時の担当者の日記など
刊行されており入手可能なものも収集
した。また、一次資料に関しても、国立
国会図書館所蔵の大型マイクロフィルム
コレクションである国際連盟マイクロ
など国内で閲覧可能な資料を閲覧が必
要となる。ただ、本プロジェクトの根
本資料の多くは刊行されておらず日本
国内に所蔵されておらず、その多くが
米欧にまたがって所蔵されており、海
外資料調査を行った。

連合王国では国立公文書館の関係資料
を閲覧、収集した。同館の資料は、オ
ンライン上で検索、一部現物も閲覧で
きることで十分な予備調査を行うこと
ができた。実際に現地へ赴いてからは、
特に外務省関係資料とブリテイッシュ
カウンシル関係資料を中心に収集した。
同館の資料は、日本から購入することも
できるので、収集した資料を帰国後精
査する過程で、新たに必要とわかった
資料は、追加で購入することができた。

フランスにおいては、同会議の後継機
関である国際連合教育科学文化機関の
本部所蔵の関係資料を閲覧、収集した。
具体的には、パリの国際連合教育科学
文化機関文書室では、AG2:Conférence
des ministres alliés de l'éducation
(CAME), 1942-1945, CAME. Liste
des documents et des dossiers de

correspondance (PRS. 80/WS/2)AG 2/1 CAME. Liste des documents, AG 2/2 CAME. Index des documents, AG 2/3 を中心に閲覧した。また同文書室の室長のポウエル博士から有益なアドバイスを得ることができた。

国際連盟の非加盟国ながら、同会議において大きな役割を果たした米国についても資料調査を実施した。特にハーヴァード大学において行った資料調査では、当時の関係出版物が網羅的に所蔵されており、それらを閲覧、収集できた。また、関係個人や団体の資料も閲覧することができた。と、同時にそれまでの研究の進め方について、同大学歴史学部の入江昭教授に面会し、研究についてのレビューを受けた。この問題についての一人者である同教授のアドバイスを、研究の途中の段階で受けることができたことは幸運であった。

史料の収集過程においては、文書館により、デジタルカメラの使用が認められるところ、利用者が自ら複写するところ、館員もしくはボランティアに複写を依頼せねばならないところとさまざまであったが、許される限りデジタルカメラを資料して、安価で効率的な手段を用いての資料収集を心掛けた。帰国後は、収集した資料を整理・分析し、また、日本国内機関所属の専門家のレビューを受けつつ、研究を進めた。

4. 研究成果

英国国立公文書館、ユネスコ文書室、米国諸大学の図書館などで収集した資料の突き合わせ、並びに分析によって、まず資料的な事実を明らかにすることができた。すなわち、連合教育相会議の開催地であるロンドンに保存されている議事録等の根本史料と、国連教育科学文化機関の本部所在地に保存されている同資料は、大部分が同一のものであるが、一部異なっており、その違いを抑えることがまずもって重要であることが判明した。

これらの資料を分析することで、これまで明らかでなかった同会議の全貌が、参加各国の利害も含めて明らかになってきた。例えば、戦後国際秩序形成の過程において、アメリカが政治領域で主導権を握っていく中で、それに追随するイギリス、そして、戦前保っていた国際政治における影響力の減退をなんとか食い止めるため、なんとかしたいフランス。しかし、フランスは、もはや国際政治において英米と肩を並べるのが難しいことは明らかであった。そのような中、どこかで少なくとも一つは国際的に主導権を握れる分野を持ちたいと考えた。それらの諸国のせめぎ合いがそれらの資料から浮かび上がってきた。そして、アメリカが圧倒的存在感をもってたちあられ、イギリスの存在感が相対的

に減退する中で、知的協力分野で主導権を握ることをフランスが米英に黙認させるに至ったという流れであることが明らかになってきた。

このような知見は、日本の学会ではもちろん全く新しいことであるが、海外の学会においても重要なことで、その成果は今後一流学術出版社から刊行が可能となろう。

また、会議の全貌を越えて、その背景にある参加者の世界観や、参加者通しの協力やせめぎあいを明らかになりつつある。これはポストコロニアリズム的研究の流れに位置づけうる重要な研究となる。

これらの知見は、学問の世界を越えて、今まで当然のこととして扱われてきた概念ややり方などが、いかに西洋中心のせめぎあいの中での歴史的産物であるかということを示し、これまで所与のものとして扱われてきた国際文化交流事業の在り方に、歴史的視角を与えることで、国際社会の中で非西洋勢力の影響力がますます増大すると考えられる 21 世紀の国際文化交流を、より健全なものにするのに寄与すると考える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

- ① 廣部泉「国際連盟知的協力国際委員会の委員選考過程と新渡戸稲造」『明治大学教養論集』第 441 号 39-53 頁 2009 年、査読無
- ② 廣部泉「来日アメリカ人宣教師の越境と日米関係」『同志社アメリカ研究』第 45 号 25-38 頁、2009 年、査読有
- ③ 廣部泉「連合教育相会議関係資料についての一考察」『明治大学教養論集』第 476 号 33-47 頁、2012 年、査読無

〔学会発表〕(計 1 件)

- ① 廣部泉、日米間キリスト教越境伝導ネットワークの展開、アメリカ学会、2008 年

〔図書〕(計 1 件)

- ① 廣部泉、ミネルヴァ書房、グルー—真の日本の友、2011、340

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

廣部 泉 (HIROBE IZUMI)
明治大学・政治経済学部・教授
研究者番号：80272475

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：